第２回　国際標準化対応支援委員会／運営委員会　国際会議報告書

資料 No.	＜SC23J 関係＞国際会議報告書
2-3／SC23J-①	SC23J「機器用スイッチ／ MT2、MT1」ストックホルム会議報告書　20070523－20070525
資料 No.	＜SC47A 関係＞国際会議報告書
2-3／SC47A-①	SC47A/WG9「集積回路／EMC 測定方法」トリノ会議報告書 20070416－20070417
2-3／SC47A-②	SC47A/WG2「集積回路／デジタル IC」トリノ会議申請書 20070418－20070419
資料 No.	＜SC48B 関係＞国際会議報告書
2-3／SC48B-①	SC48B「コネクタ」コペンハーゲン会議議報告書　20070521－20070523
資料 No.	＜SC62A 関係＞国際会議報告書
2-3／SC62A-①	SC62A/WG14「共通安全規格の試験」ミュンヘン会議報告書 20070502-20070504
2-3／SC62A-②	SC62A/JWG3「医療機器のソフトウエア（リスクマネジメント)」ライプツィッヒ会議報告書 20070509-20070511
2-3／SC62A-③	SC62A/JWG1「リスクマネジメント」フランクフルト会議報告書 20070402-20070405
2-3／SC62A-④	SC62A/JWG6「在宅医療機器」フランクフルト会議報告書 20070326-20070330
2-3／SC62A-⑤	SC62A/MT23　「EMC」パナマシティー会議報告書 20070227-20070302
資料 No.	＜SC62D 関係＞国際会議報告書
2-3／SC62D-①	SC62D/MT17「医用電子機器／高周波手術器」ベルリン会議報告 20070521-20070523
資料 No.	＜TC80 関係＞国際会議報告書
2-3／TC80-①	TC80/WG14-WG16　米国 St’Pete Beach 国際会議報告書 20070507-20070511
2-3／TC80-②	TC80/WG1 英国ロンドン会議出席報告書 2007-514-20070515
2-3／TC80-③	TC80「オスロ総会報告」20070522-20070523
資料 No.	＜TC87 関係＞国際会議報告書
2-3／TC87-①	TC87/WG9　「超音波／パルスエコー診断装置」シュツットガルト会議報告書 20070320-20070320
資料 No.	＜TC91 関係＞国際会議報告書
2-3／TC91-①	TC91「電子実装技術」シンガポール会議報告書 20070607－20070608
2-3／TC91-②	TC91/ACEA Meeting「電子実装技術」ジュネーブ会議 20070423-20070424
資料 No.	＜TC100 関係＞国際会議報告書
2-3／TC100-①	TC100「PT61606-3 デジタルオーディオ測定方法プロフェッショナル用途」ウィーン会議報告書 2007-0506
2-3／TC100-②	TC100「AGS（戦略諮問会議)」ワルシャワ会費報告書-2007-0516
2-3／TC100-③	TC100「AGM（運営諮問会議)」ワルシャワ会費報告書-2007-0517
2-3／TC100-④	TC100/TA4　「マルチメディアシステム・機器／デジタルシステムインタフェース＆プロトコル」ウィーン会議報告書 20070504-20070505

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　　　　　運営委員会・資料番号：2-3/SC23J-①（事務局記入）
IEC 活動推進委員会　御中

提出日：2007 年 6 月 11 日

（報告者記載）整理番号：H19SC23J①A

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：賀川 和義　報告書作成者氏名：四宮 繁樹　（会社名）アルプス電気（株）

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC23J (半角)
SC23J/MT1	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他	名称 (日本語)	機器用スイッチ
SC23J/MT2	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007 年 5 月 23 日 ～ 2007 年 5 月 25 日		
開催場所	（国名）スウェーデン	（都市名）ストックホルム	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. T. Korssell （ｽｳｪｰﾃﾞﾝ）	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	6 ヶ国、主な国名 ﾄﾞｲﾂ, ｵﾗﾝﾀﾞ, ｽｳｪｰﾃﾞﾝ, 英国, 米国, 日本、参加人数（10）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 四宮 繁樹(アルプス電気)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．SC23J/MT2 （参加 3 ヶ国, 4 名 ｺﾝﾍﾞﾅ：日本 四宮）

(1) IEC61020-1 の CDV 文書(23J/297/CDV)の回覧に関して、中央事務局内で連絡ミスがあり、フランス語への翻訳が必要かどうかの確認がされていなかった。確認の結果, フランス語訳が必要となり、このため、翻訳に時間が必要で、意見〆切を２ヶ月延長し 2007 年 11 月 14 日とする。別途、正式文書が発行される。

(2) ドイツの Mr. B. Martin が新たにドイツ国内委員会の SC23J 代表委員として参加する。

(3) IEC61020-1 の CDV 文書（23J/297/CDV）に関して、ドイツ国内委員会より多くの細かなコメントが出る模様。今回の会議には間に合わなかった。内容は, 他の規格との整合性を取るための修正等。このため、意見〆切後の今年 12 月 11,12 日にフランクフルトで MT2 を開催して審議を行う。国際幹事の Mr. Moeller は IEC 活動が今年で最後なので、任期中にまとめたい意向。

(4) 日本意見は今回の会議のコメントとしてまとめた。なお、現在, 日本で IEC61020-1 に基づいてスイッチの JIS 規格を改正中である旨を説明し, 審議を急ぐために, 数の多いドイツのコメントを非公式に e-mail にて送付してもらい, 逐一検討して全体としての審議期間を短縮することとした。

2．SC23J/MT1 （参加 6 ヶ国, 10 名, ｺﾝﾍﾞﾅ：Mr. A. Groves 英国）

(1) 国際幹事の Mr. Moeller（ドイツ）は今年いっぱいで IEC 活動から引退するので, 今回が MT1 としての最後の会議となる。（SC23J 発足以来, 国際幹事として 27 年間活動）。次期国際幹事はドイツの Mr. J. Tretter の予定。

(2) IEC61058-2-4（独立形固定スイッチ）については, 新しいメンテナンス期日を 2012 年と設定して MCR を発行する。

(3) IEC61058-2-1（コードスイッチ）の CD 文書（23J/291/CD）に対するコメント集を回覧し, CDV 文書は 2007 年 10 月に回覧の予定。

(4) IEC61058-2-5（切換セレクタ）の CD 文書（23J/295/CD）に関するコメントはすべて文書審議とし, ２次 CD 文書は IEC61058-2-5 の第 2 版の様式（IEC61058-1 第 3 版-A2 含む-の関連様式）で, 2007 年 9 月 8 日発行予定。

以上

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：2-3/SC47A-①（事務局記入）

提出日：2007 年 5 月 1 日

（報告者記載）整理番号：H19SC47A②A

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：中村 篤　報告書作成者氏名：齊藤 義行　（会社名）松下電器産業（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A/WG9 (半角)
SC47A / WG9	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名 称 (日本語)	集積回路／EMC 測定方法
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007 年 4 月 16 日 ～ 2007 年 4 月 17 日		
開催場所	（国名）イタリア	（都市名）トリノ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mart Coenen	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 日本(6),ﾄﾞｲﾂ(2),ｵﾗﾝﾀﾞ(1),米国(1),ｽｲｽ(1),ｲﾀﾘｱ(2),ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ(1)、参加人数（14）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○中村篤(ﾙﾈｻｽ),○増田則夫(NEC),○齊藤義行(松下),横溝剛一(ﾙﾈｻｽ),三谷真一郎(日立),市川浩司(ﾃﾞﾝｿｰ)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 前回（ロンドン会議）議事録の確認・各プロジェクトのステータス確認
　議事録は修正無く承認された。ステータスについては①IEC 62132-2（TEM Cell 法）の 2nd CD が次回会議までに出されること、②IEC 62132-3（BCI 法）の最新ドキュメントがセクレタリーに送付済みであることが報告された。日本からは IEC 61967-6 Amd.（MP 法）の FDIS を会議の前週にセクレタリーに送付済みであることを報告した。
2. IEC 61967-4 （1Ω／５０Ω法）
　従来のキャリブレーションボードでは１GHz 手前の周波数帯でアイソレーションが十分確保できないため、新たなキャリブレーション方法がドイツ委員より紹介された。Amendment として提案される予定。
3. IEC 62132-2（TEM Cell 法）
　2nd CD の修正点について米国委員より簡単な説明がなされた。最大の修正点は IEC 61000-4-20 を参照し、キャリブレーション方法を更新した点。
4. IEC 62215-2（Synchronous transient injection 法）
　47A/762/DTS に対する各国からのコメントに関する審議を実施。日本からのコメントはほぼすべて Accept されたが、タイトルに関するコメント「シリーズ名が Impulse Immunity なのに、Part2 のタイトルにより上位概念の"Transient"が使われるのはおかしいという指摘」については重大な議論となった。結果的に主張は認められたが、現時点でタイトル変更が可能かどうか不明なため、セントラルオフィスの判断を仰ぐこととなった。
5. IEC 62215-3（Random transient injection 法）
　トリノ会議の前週に NP 文書をセクレタリーに送付済みであることが報告され、NP の概要についてアメリカ委員より説明がなされた。説明を受け、①測定に使える市販の Transient Generator があるかどうか、②市販の Transient Generator で何 kV まで出力可能か、③厳密には Random ではなく、Non-Synchronous ではないか、④印加ノイズ量を電圧で定義するのではなく、電力で定義すべきではないか、といった点が議論となった。しかし、まだ Circulation 前であることもあり、結論は出ず、次回の Toulouse 会議で議論されることになると思われる。
6. IEC 62132-6（Local Injection Horn Antenna 法）
　ドイツ、オランダ、日本より LIHA の実測評価結果について報告された。どの報告も再現性や他の測定法との相関の点で IC の Immunity 測定方法としては否定的。（NP を受け入れるかどうか国内委員で議論する必要あり）
7. 次回以降の予定　　2007 年秋：Toulouse（FR）：11 月 5 日～9 日（SC47A plenary と同時開催）
　　2008 年春：日本（開催都市・日程未定）・・・開催都市を決定する必要あり

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

（社）電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：2-3/SC47A-②（事務局記入）

様式 4

提出日：2007年 4月　日

(報告者記載)整理番号：H19SC47A①B

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：中村 篤　報告書作成者氏名：三谷 真一郎　（会社名）(株) 日立製作所

出席会議名(半角) SC47A / WG2	区　分 □TC □SC □TA ☒WG □PT □その他 □TC □SC □TA □WG □PT □その他 □TC □SC □TA □WG □PT □その他 □TC □SC □TA □WG □PT □その他	組織番号(TC/SC/TA)：SC47A/WG2 (半角) 名称(日本語)：集積回路／デジタル IC ☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007年 4月 18日 ～ 2007年 4月 19日		
開催場所	(国名) イタリア	(都市名) トリノ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	三谷 真一郎	幹事国 日本	
参加国及び参加人数	7ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、イタリア、オランダ、米国、ポーランド、スイス 参加人数 (15)		
日本人出席者名 (会社名)	[○：補助対象者･･･ (例)：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○三谷真一郎(日立製作所)、○市川浩司(デンソー)、○横溝剛一(ルネサステクノロジ)、齊藤義行(松下電器)、中村篤(ルネサステクノロジ)、増田則夫(日本電気)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1. プロジェクト状況：SC47A/WG2 では現在 3 件のプロジェクトが進んでおり、各々の状況を説明。JEITA の低電圧 IC SC で審議中の超ワイドレンジインタフェースを Voltage scalable interface spec という仮名で紹介し、NP の可能性を予告した。
2. IEC60748-2-20 Ed.2 (Low voltage family spec.改訂、日本提案)：47A/770/CDV の CD ドラフトからの変更点を説明。特に異論は出ず。投票期限は 9 月。次回の WG 会議でコメントを審議する。
3. EMC IC modeling - part 1: General modeling framework (47A/767/NP、オランダ提案)：本案件は IP, IC からボードにいたる EMC シミュレーションモデルのフレームワーク。IEC 62433 のシリーズ化に伴いオランダから提案。５ヶ国のエキスパートにより成立し、IEC 62433-1 となる見通し。リーダはオランダの Coenen 委員。
3.1 コメント審議：５ヶ国から合計 104 件のコメントが提出された。質･量ともにドイツが抜きん出ている。全件審議し observation を決定。日本のコメントは抽象的表現の１件を除き accept された。会議後 RVN を回覧する。
3.2 横溝委員プレゼン： NP ドラフトはモデルの概念のみが記されており、モデル式・モデル要素決定法などの具体性に欠けており、今後解決すべき課題として残されている。この中で横溝委員がモデル概念を理論的に裏付けるプレゼンを行なった。抽象的表現のモデル概念を一挙に具体化できる可能性が見出され、各国委員の注目を浴びた。
3.3 今後の進め方： 今回の審議で CD ドラフトへの修正が質･量ともに膨大になることが判明。このため PJ リーダが各国に分担の依頼をしてもよいこととした。次回 11 月の WG 会議に間に合うようにドラフトを準備する。
4. IEC 62433-2: ICEM-CE (IC の conducted emission モデル、フランス提案)： フランス委員が個人事情で欠席し CDV ドラフトの説明がなかった。前項（IEC 62433-1）審議の結果、IC モデルの IS として、また、シリーズ内の統一性の観点から本案件に反映させるべき点が多々あることが判明。CDV がこのまま approve されぬよう変更の要請を行なうこと、またこの結果によっては投票において WG 会議参加国で極力共同歩調をとることを申し合わせた。
5. 課題：ドイツの委員より、"専門が EMC なのでデジタル IC 関係 PJ に寄与できない"旨の発言があり、これに対して適任者をドイツから指名して欲しい旨の要請を行なった。非公式であるが当ってみるとの返事を得たが、現在の WG2 委員は EMC 関係者が大半であり、ドイツ委員の発言は WG2 委員の一般的気分と思われる。今後、EMC 以外の案件を成立させるためには特段の努力が必要になる。
6. 次回：11 月の SC47A plenary と同時開催

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3/SC48B-①（事務局記入）　　様式 4

IEC 活動推進委員会　御中

提出日: 2007 年 6 月 11 日

（報告者記載）整理番号：
H19SC48B①A

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：河合　徹　報告書作成者氏名：　小島　槇雄　（会社名）タイコエレクトロニクスアンプ

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC48B (半角)
SC48B/WG3	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
SC48B/WG5	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	名　称 (日本語)	コネクタ
SC48B/WG6	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007 年 5 月 21 日 ～ 2007 年 5 月 23 日		
開催場所	(国名) デンマーク	(都市名) コペンハーゲン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	G. Weking/D. Jooren/U. Blosfeld	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	9ヶ国、主な国名 米、独、英、仏、伊、スイス、オランダ、デンマーク、日本、参加人数（28）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 河合徹(日本航空電子)、○小林和幸（第一電子工業)、○ 小島槇雄(タイコエレクトロニクスアンプ)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．WG３(コネクタ)

(1) 60603-7-1 ８Ｐ モジュラージャック (3 MHz), シールド形：48B/1698/CD に対する各国からのコメントを議論した。この議論の結果を反映したＲＶＣが数週間以内に発行される予定。 この規格により 60603-7 シリーズの規格体系が次のとおり明確化された。非シールド形は、60603-7(3 MHz), 60603-7-2(100 MHz), 60603-7-4(250 MHz), 60603-7-41(500 MHz), シールド形は、60603-7-1(3 MHz), 60603-7-3(100 MHz), 60603-7-5(250 MHz), 60603-7-51(500 MHz), 60603-7-71(1000 MHz) の規格番号とする。

(2) 61076-2-101 Ed.2　M12 丸型コネクタ：英国 NC から、ガラス誘電体を使用して金属ボディーの中にピンを保持するタイプの追加修正提案があった。英国 NC は、要求された変更を含んだ原案を準備し、SC48B セクレタリーへ送付予定。

2．WG５(試験法)

(1) 60512-15-1 Test 15a (コンタクト保持力) から 60512-15-7 Test 15g (保護カバーの強度)までのＣＤＶに対する各国からのコメントを議論した。この議論の結果を反映したＲＶＣが数週間以内に発行される予定。

(2) 60512-16-1 Test 16a (プローブダメージ) から 60512-16-17 Test 16q (固定タブの引張り圧縮強度)までのＣＤＶに対する各国からのコメントを議論した。この議論の結果を反映したＲＶＣが数週間以内に発行される予定。

(3) 60512-27-100 (Signal integrity tests up to 500 MHz)が 48B/1742/NP として提案された。この規格は、適用範囲を 500 MHz に拡張して欲しいという独コメントに応えたもので Insertion loss, Return loss, Near-end crosstalk, Far-end Crosstalk 及び Transfer impedance の試験法をカバーする。各国からのコメントに対し議論した結果を反映したＣＤ文書をプロジェクトチームが準備することにした。

(4) 60512-5-2 (Derating curve)：Derating curve における最大許容温度の決め方に対し提案があり議論したが結論には至らなかった。

3．WG６(接続技術)

(1) コンプレッションマウント接続（IEC 60352-８）：日本提案

60352-8：Solderless connections - Part 8: Compression mount connections - General requirements, test methods and practical guidance は、48B/1789/CD として 2007 年５月 25 日付で各国へ回覧された。

コンベナーは、コンプレッションマウント接続には色々な方法があるがこの規格が全ての方法に適用できるか懸念を示した。内容の審議は、次回会議に持ち越した。

(2) 60352-5 プレスイン接続：プリント配線板のドリル孔は、実用的でないので削除すべきであるとドイツからコメントがあったが議論の結果、推奨孔として現状どおり表１を残すことにした。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：2-3/SC62A-①（事務局記入）

様式 4

提出日：2007 年 5 月 15 日

（報告者記載）整理番号：H19-62A-⑱

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：内藤正章　（会社名）日本光電工業

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	SC62A/WG14（半角）
WG14	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他 □TC □SC □TA □WG □PT □その他 □TC □SC □TA □WG □PT □その他 □TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	共通安全規格の試験
		☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007 年 5 月 2 日 ～ 2007 年 5 月 4 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ミューヘン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	M. Sippl	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 米、独、加、イスラエル、日、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○内藤正章		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1.背景･目的

このWGは、医用電気機器の安全性に関する試験についての検討をおこなっている。医用電気機器の安全規格には、具体的な試験方法が記述されていないところが多く、その解釈と適合性の判断にバラツキを生じることもある。試験方法と解釈の整合がこのグループのタスクである。

今回は、主に次の2つの課題について議論された。

ー IEC TR 62296：“第二版の不明確な安全性解釈に対する考慮“の Recommendation sheets

ー TR62354（ General Testing Procedures）

2.成果

TR 62296 に関して

この規格は2003年3月に発行されているが、第二版の検討が開始された。34件の Recommendation sheets の見直しを行ない本文の修正を行なった（詳細略）。

この改定のスケジュールは、2007年9月 CD, 2008年8月 CDV, 2009年9月 FDIS の予定である。

TR 62354 に関して

第三版に整合させるためのメインテナンスが開始され、14項目のコメントが検討された。さらに次の点を見直して、9月にドラフトを回付することになった。

① 試験に求められる機器の詳細、②安全性試験中の注意の説明を拡大、③試験サンプル準備および試験条件のアップデート、④よりよい説明の追加、⑤用語インデックスの追加、⑥用語の定義の拡大

3.問題点など

ーアラームに関する試験をどうするかが議論されたが、結論には至らなかった。規格には、試験に関する規定がなく、どのような試験（Electric, Acoustic）が求められるのか、話し合った。まとまらず、このグループを統括している SC62A セクレタリに Acoustic 専門家に見解を求めてもらうよう要請することになった。

ー個別製品に対するリスクマネジメントのインスペクションシートを、今後 作る方向となった。

ー11歳以下の子供用テストフィンガーの検討が今後の課題となった。

4.次回会議

2007年10月30日から11月1日、テルアビブ（イスラエル）。

［注］： 1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：2-3/SC62A-②（事務局記入）

様式 4

提出日：2007 年 5 月 24 日

（報告者記載）整理番号：
H19-62A-⑩

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：中里俊章　（会社名）東芝メディカルシステムズ

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC 62A（半角）
JWG3	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	医用電気機器/ソフトウエア
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007 年 5 月 9 日 ～ 2007 年 5 月 11 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ライプツィヒ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Sherman Eagles	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、カナダ、英国、スウェーデン、日本、参加人数（15）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○中里俊章（東芝メディカルシステムズ）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

[背景・目的]

ISO 14971(IEC 62304:2006 の引用規格)を医療機器のソフトウェアに適用していくためのガイダンスとなる IEC 80002 TS Ed.1.0("Medical device risk management - Guidance on the application of ISO 14971 to medical device software"）の第 1 回審議に出席したので、主な審議、決定事項を報告する。

[議事・内容]

1．タイムライン：07/7 見直し原案完成、07/9Roanoke 会議、07/12 会議(場所未定)後に 1CD
08/11 1CDV、09/9 FDIR、09/11 TR

2．全体を ISO 14971:2006 の章立てにしたがって再度原案作成する。
ドイツのコメントに賛同し、ISO/TR 14969 のように再構成する。この際、Clause4,5,7 を現在の Clause６の適切な場所に再配置する。Clause７は IEC62304 の開発・保守プロセスであり、これをリスクマネジメントのプロセスに再配置するのは困難であるとコメントしたが認められず、ボランティアにより 07/7 に向けた作業開始となった。

3．上記決定に基づき、Clause６の ISO 14971 部分のレビューを実施し、完了した。

4．その他
IEC 62304 に関する動き
・ドイツが独語訳版を 07/3 に発行した。日本は JIS 化の状況を報告。
・IEC 60601-1-4 Ed.3.0 の FDIS Clause14 で IEC 62304 を直接引用していることに関して議論された。
一部ドイツ委員から反対があったが、JWG3 としては承認した。

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：2-3/SC62A-③（事務局記入）

提出日: 2007 年 5 月 10 日

（報告者記載）整理番号：H19-62A-⑥

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：市川　義人　報告書作成者氏名：　市川義人　（会社名）オリンパスメディカルシステムズ

出席会議名（半角）	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	IEC／SC62A/JWG1（半角）
JWG1	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称(日本語)	リスクマネジメント
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開催期日	2007 年 4 月 2 日 ～ 2007 年 4 月 5 日		
開催場所	(国名) 独	(都市名) フランクフルト	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	M. Dolan	幹事国　独	
参加国及び参加人数	7ヶ国、主な国名 カナダ、米国、ドイツ、オランダ、フランス、デンマーク、日本、参加人数（15）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○市川義人（オリンパスメディカルシステムズ(株)）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

[背景・目的]　ISO 14971 リスクマネジメント第2版の FDIS の国際投票が行なわれ、近々IS 化される予定である。さらに、様々な規格によってリスクマネジメントが要求されているが、必ずしもリスクマネジメントの規格への適用が正しく行なわれていない或は解釈に誤りがある。これらを正しく適用するために、今回は IEC GUID63:1999 規格作成者に向けたリスクマネジメントの適用ガイダンス及びチェックリスト（案）の審議を行なった。

[議事・内容]

1．個別規格、副通則を作成する際に使用するためのチェックリスト（ホワイトペーパー案）の内容確認と審議終了。

2．IEC GUIDE ６３の改定案審議終了。

3．IT ネットワーク機器及び医療機器へのリスクマネジメントの適用ガイダンスの JWG の審議結果を JWG１も審議する方向で各国及び国際 JWG が働きかける事になった。

[今後の予定]

・2007/10　タイのバンコクで JWG を開催予定（ただし決定ではない）

[問題点]

・上記 GUDE ６３及びチェックリスト審議の中でプロセス規格とプロダクト規格では厳密に言えば適用方法に差がある事が問題視された。及び受容可能なリスクの基準が曖昧な規格（明確に定義できない）ものをどうするかも問題視された。今後の会議で整合を図る。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　　運営委員会・資料番号：2-3/SC62A-④（事務局記入）
IEC 活動推進委員会　御中

提出日: 2000 年 5 月 30 日

（報告者記載）整理番号：
18SC62A 予算無②A

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：＿＿＿＿　報告書作成者氏名：　中谷 敬　（会社名）日本光電工業株式会社

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A (半角)
SC62A/JWG6	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	在宅用医療機器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開　催　期　日	2007 年 3 月 26 日 ～ 2007 年 3 月 30 日		
開　催　場　所	(国名) ドイツ	(都市名) フランクフルト	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	H. Lasthous, Dr. Hedley-White	幹事国　ドイツ	
参　加　国及び 参　加　人　数	5ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、スイス、イギリス、日本、参加人数 (20)		
日　本　人 出席者名 (会社名)	[○：補助対象者・・・ (例)：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 中谷敬(日本光電工業株式会社)、○ 石田伸司(テルモ株式会社)、 池田誠(テルモ株式会社)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

IEC/SC62A と ISO/TC121/SC1&SC3 の Joint Working Group (JWG6)で、在宅医療機器に関する副通則 IEC 60601-1-11 の制定作業が開始された。今回の JWG6 会議では、ドイツが作成した NWIP(WD1)に対する各国コメントについて討議し、CD 作成の作業を行った。

[討議内容と結果]

(1) 討議結果を基に、CD 原案が作成された。2007 年 6 月に CD 発行予定。ただし、一部の規定(移動型機器の耐環境性など)は、Working Group(WG)がまとめるため、その作業結果によっては、WD2 としてエキスパートのみの配布となる可能性もある。

(2) 審議で大きな時間が費やされたのは、在宅用医療機器の定義であった。結局、Home healthcare environment を次のように定義し、この環境下での使用を製造業者が意図する医療機器と定義された。

Environment in which the PATIENT lives or other environments that PATIENTS can occupy, excluding professional healthcare facility environments (細分箇条 3.3)

(3) 在宅用医療機器は病院環境よりも厳しい条件での使用が想定される。安全通則 IEC 60601-1 ではリスクマネジメントを考慮し、使用環境、耐衝撃性などは製造業者が定めることになっている。日本は、原則として安全通則をそのまま適用すれば新たな規定は不要との立場を主張した。しかし、大勢は在宅用としての規定を設けるべきとの意見となり、具体的な条件が規定された(例、使用環境温度 -5℃～+40℃)。しかし、規定する環境条件での使用ができない場合は、機器に使用条件を表示し、取扱説明に取扱注意事項などを開示すればよいことになった。

(4) 欧米のメーカーは、人工呼吸器、輸液ポンプなどの生命維持装置の在宅使用を念頭において、この規格を制定しようとしている。生命維持装置に対しては、電源環境、耐衝撃性などについて、一般用医療機器よりも厳しい使用条件規定が設けられた。

(5) その他、NWIP では安全通則と重複する記述がかなり見受けられた。特に取扱説明の記載事項などについては、大幅修正された。また、副通則(EMC、ユーザビリティ、アラーム)は、すべて適用されることが確認された。

(6) 今後の予定。

・次回 JWG6 開催　2007 年 10 月 29～11 月 2 日、　Washington D.C.、アメリカ。
・次々回の JWG6(2008 年 5 月)を日本で開催したい旨の要請があった。受諾する予定で準備検討をしたい。
・IS 発行予定 2009 年 11 月

以上

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：2-3/SC62A-⑤（事務局記入）

様式 4

提出日：2007 年 6 月 5 日

（報告者記載）整理番号：H18SC62A⑤

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：市川 義人　報告書作成者氏名：中田 和成　（会社名）（株）東芝

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	62A/MT23 (半角)
IEC/SC62A MT23	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称(日本語)	共通事項：EMC
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007 年 2 月 27 日 ～ 2007 年 3 月 2 日		
開催場所	（国名）アメリカ	（都市名）パナマシティ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	アメリカ	幹事国　アメリカ	
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、日本、参加人数（12）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 中田 和成（(株) 東芝		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景と目的

IEC 60601-1-2 第 4 版の MCR（62/175/MCR）が発行され、改訂作業が正式に開始された。2007 年 11 月の CD 文書発行に向けて、試験レベルなどの審議を行う。

2．成果

ドイツメンバで検討した Table 案を基に審議を進めることになった。案の作成で参考とした規格は、EN 61496-1、EN 61326-3-1、EN 60335-1、EN 50165、EN 55024、EN 61000-6-2、EN 62061 など多岐に渡っている。環境を Hospital、Doctors office／Home care、Ambulance に分類して、試験レベルの検討を行った。この中で最も緩い Hospital でも現行規格より厳しくなっている。今後、規格本文の作成に移行していく。

Performance Standard として CISPR 24 を適用することを検討していく。ただし、患者接続部に対する要求など CISPR 24 にない部分については補足が必要である。このことにより、Performance Standard を開発する時間を節約でき、Ed.4 に注力することが可能になると考えられる。

単一故障状態での試験が含まれていないことで、IEC 60601-1-2 Ed.2 及び Ed.3(FDIS)は安全性を保証するのに不適当であるというイギリスの意見に対して、MT23 の見解を議論した。MT23 としては、Ed.2 に適用した装置は電磁環境において安全であると確信しているとの結論になり、その内容を文書にまとめ、CENELEC/TC62 の Chairman である Mr. Linders へ送った。

IEC 60601-1-2：2001 の Amendment1 は 2004 年に英語版が発行され、2005 年に仏語版を追加した bilingual が発行された。2004 年版と 2005 年版の A1 が存在することになってしまったので、公式にはどちらの年号を使えばよいかを Mr. Sidebottom に確認したところ、2004 年との回答だった。

3．問題点

会議に出席する前に、Ed.4 に対する日本の意見として、試験レベルの厳しい安全規格だけ行えば性能規格試験は省略できるようにすることや、試験設備の膨大な更新費用を抑えるために徐々に変えていくことなどを提案したが、どれも受け入れられなかった。これから CD 文書の作成作業が本格化するが、過度で理にかなわない要求内容にならないように、審議に参画していくことが必要である。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター

（社）電子情報技術産業協会
IEC活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：2-3/SC62D-①（事務局記入）

様式 4

提出日：2007年5月30日

（報告者記載）整理番号：H19SC62D⑤A・B

IEC国際会議出席報告書

TC/SC/TA担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：三堀貴司　（会社名）オリンパスメディカルシステムズ（株）

<table>
<tr><td rowspan="4">会議名（半角）
SC62D/MT17</td><td>区　分
☐TC　☐SC　☐TA　☒WG　☐PT　☐その他</td><td>組織番
(TC/SC/TA)</td><td>SC62D/MT17（半角）</td></tr>
<tr><td>☐TC　☐SC　☐TA　☐WG　☐PT　☐その他</td><td rowspan="2">名　称
（日本語）</td><td rowspan="2">医用電子機器 / 高周波手術器</td></tr>
<tr><td>☐TC　☐SC　☐TA　☐WG　☐PT　☐その他</td></tr>
<tr><td>☐TC　☐SC　☐TA　☐WG　☐PT　☐その他</td><td colspan="2">☒単独開催　☐同時開催</td></tr>
<tr><td>開催期日</td><td colspan="3">2007年5月21日 ～ 2007年5月23日</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td>（国名）ドイツ</td><td colspan="2">（都市名）ベルリン</td></tr>
<tr><td>ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ</td><td>Jeffrey Eggleston　（米国）</td><td colspan="2">幹事国　米国</td></tr>
<tr><td>参加国及び
参加人数</td><td colspan="3">7ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、カナダ、UK（ウェールズ）、オーストリア、スウェーデン、日本、参加人数（11）</td></tr>
<tr><td>日本人
出席者名（会社名）</td><td colspan="3">[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)]
○三堀貴司 ○市川義人</td></tr>
</table>

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1.背景と目的

以下の審議事項に関する審議・検討の為、主題会議に出席した。主な審議事項は以下に記す通りである。

①IEC60601-2-2 Ed5 CD文書に対する各国コメント審議、並びに方向付けの整合。
②高周波手術器作動中の雑音端子電圧に対する要求事項に対する審議。
③IEC61289-1/2（オペレーションとメンテナンス）テクニカルレポートのアメンドメントに向けた審議。
④高周波手術器で使用される高周波の定義に対する提案・審議。

2.成果及び課題

①IEC60601-2-2 Ed5 CD各国コメントに対する審議結果

・CDに対する各国コメント総数143事項の内、主にテクニカルコメントに対する審議を実施、完了。日本からは10事項のコメントを行い、全て承諾された。本件に関して特筆すべき点を以下に記す。

（ i ）以下の4項目を高周波手術器の基本性能(Essential Performance)として要求事項（201.4.3.101）に加える事で合意された。
<A>対極板監視回路（該当するSubclause 201.8.4.101）<B>低周波漏れ電流（同、Subclause 201.8.7.1）
<C>スイッチセンサー（同、201.8.10.4.101.1）　<D>出力の正確度（同、201.12.1.101）

（ii）高周波漏れ電流の試験方法において、リード線を長く引き回して測定する方法は要求事項から削除（安全性に寄与しない為）。GeneratorとAccessory毎に個別の要求事項とする事で合意された。

（iii）Accessoryに対する漏れ電流要求事項（201.8.8.3.102）に対して、米国より細径アクセサリーに対しても適用対象とすべきとの意見が出された。要求事項の変更となる為、本件はペンディング。CDは"検討中"としてリリースする。同時に、評価を実施し、次回会議にて審議する（プロトコル立案：米国）。

②CISPR B Ed5 CDV 高周波出力中の雑音端子電圧について

・同時期に東京にて開催されたCISPR B WG国際会議の状況を見ながら、MT17としての最終意見を審議。本件を要求事項として反映させることは出来ないとの見解で一致した。

・本件は今後CISPR B WG－MT17間で調整して行く事となった。MT17サイドのウィンドウパーソンはConvenorのJeffrey Eggleston氏。2007年9月のCISPR Bシドニー国際会議での合意を目指す事となった。

③IEC61289-1/IEC61289-2テクニカルレポートアメンドメントについて

・記載事項のコンテンツ確認、並びにハザド調査の為、各製品カテゴリー毎の取扱説明書を構成するコンテンツリストを作成し、Convenorに提出する事となった。取りまとめはConvenorであるJeffrey Eggleston氏。日本担当は内視鏡用処置具のコンテンツ作成となった。

④高周波の定義について

・バイポーラ機器に対する高周波の定義として下限値を100kHzとすべきとの提案がなされたが、定義変更となることから却下。代替提案としてAnnex.に解説を追加することで合意された。

3. 今後の日程

次回会議日程・場所は別途提案される。開催場所候補地はバンクーバー、又はニュージーランド。　以上

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3/TC80-①（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2000年 5月 30日

（報告者記載）整理番号：
H19TC80⑱A

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：　矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80 (半角)
WG14	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	基地局/航法支援 AIS
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開催期日	2007年 5月 7日 ～ 2007年 5月 11日		
開催場所	(国名) 米国	(都市名) St' Pete Beach	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Alan Stewatd/Peggy Browning	幹事国 UK	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 日本、米国、UK、スウェーデン、ノールウェー、ドイツ等、参加人数 (19)		
日本人出席者名 (会社名)	[○：補助対象者･･･ (例)：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○古山 賢二(日本無線)、○矢内 崇雅(沖電気工業)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．背景　：Non-ship AIS の NP 承認段階にての開発分類に Simplex Repeater Station があり、NP での開発優先順位に従って WG14 として IEC 規格を作成する段階になった。

2．目的　Non-ship AIS としての Simplex Repeater Station AIS の IEC 規格開発の推進が前回会議である WG14-15 モントリオール会議にて合意されたことを受けて、具体的な推進方法と Simplex Repeater Station AIS としての基本的な仕様の検討を中心に、AIS に関連する項目に関する整合を図る。

3．成果　1）Non-ship AIS の規格開発体制を IEC/IALA との共同にて推進を図るとする目的で IEC62320-1 基地局 AIS の IS 発行と IEC62320-2 航路標識 AIS の CDV の回章に漕ぎ着けた事と Convenor が IALA を退職したことを受けて、新 Convenor の選出と Project Leader の選出を実施。Convenor は 5月 22/23 日の TC80 総会にて正式承認を受けることで今回会議からその任を担当した。

2）今後の開発項目と開発スケジュールに関する大枠の方針を討議。新開発案件として①Simplex Repeater Station、②AIS-SART Station、IEC62320-1 Ed.1 の改定作業及び IEC62320-2 Ed.1 の IS に向けた作業とし、2ヶ月から 3ヶ月の単位で開催計画が見直された。

3）今回の会議での議題項目として予定した IEC62320-2 Ed.1 AtoN AIS Station に関する Pre-resolution としての事前のコメントに関する検討は時間の関係で出来ず、8月 16 日～の Resolution 会議にて行うことにした。

4）今回のメインテーマである Simplex Repeater Station 規格開発の目的論が、WG14 議長（スコットランド）及び Project Leader（ドイツ）から、①見通しが効かない水路での航行安全の確保、②基地局のシステム的な管制範囲の拡大、③航路標識を利用した情報伝達の拡大等の要求に応える、として開発を行うとの説明があった。

5）Simplex Repeater Station としての機能・性能要件の概要は ITU-R　M.1371-3 及び IALA A-124 にて規定されいるが、各エキスパートがこれまでの経験等を踏まえての再度、問題点・課題を抽出するとして議論され、①中継する場合のMMSＩの取り扱い、②同期のとり方と中継数との関係、③メッセージ種類と中継の可否、④通信方式の適用性、⑥再送信の通信方式と遅れ時間及び優先度の考え方等が主要項目として挙げられた。

6）ITU-R M.1371-3 にて記述されている Repeater Station に関する記述内容を参考に、上記との関連をもって内容に関して更なる検討の必要性について議論を行い、Simplex Repeater Station としての Draft 版を作成した。

4）次回の会議は 2007 年 8 月 16 日から 2 週間に渡って、IEC62320-1 Ed.1 の CDV Resulution と Repeater Station の検討をオーストラリア　キャンベラにて行うことにした。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3/TC80-②（事務局記入）　　様式 4
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007年 5月 29日

（報告者記載）整理番号：H19TC80②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：小松　裕昭　（会社名）古野電気株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	TC80（半角）
WG1	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	レーダ・プロッティング装置
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007年 5月 14日 ～ 2007年 5月 15日		
開催場所	（国名）英国	（都市名）ロンドン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. David Hannah	幹事国　英国	
参加国及び参加人数	7ヶ国、主な国名 英国、ドイツ、ノルウェー、日本、アメリカ合衆国、カナダ、参加人数（15）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○ 小松裕昭(古野電気株式会社)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1. 背景
   IMO決議MSC.192(79) – SOLAS条約船用レーダ及びプロッティング装置性能基準の採択を受け、IEC型式試験技術規格（IEC 62388）作成の必要性が発生した。
2. 目的
   2006年11月10日付け80/461/CDVの投票が2007年04月13日に締め切られ、Pメンバー17ヶ国投票全員賛成で承認されたが日本、米国、英国、ドイツ、ノルウェー等から300件（日本からは59件提出）以上のコメント（Technical及びEditorial）が提出され、それ等、特に技術的コメントに対する諾否についてのResolution Meetingが開催され、日本からのコメント趣旨説明の為に会議に出席した。
3. 成果・問題点
   ※前回#52 WG1会合（2007年01月22～24日）で再検討されたクラッタ存在下での探知性能についてのレーダ装置の合否判定基準である80/461/CDVの表3と表4に基づき、ドイツ検定機関がバルチック海で評価試験を行った結果、見直し修正された合否判定基準でも、現行のスキャン相関やSTCコントロール技術では対処できなく、従って規格に不合格となるレーダ装置が続出することが予想されることが指摘されたのを受けて、審議の結果、合否判定基準ではなく合否評価基準との表現に修正し基準に幅を持たせた。
   ※探知性能向上の為に予想される新送信技術を採用したレーダ装置と従来型マグネトロン使用のレーダ装置が互いに同じ周波数帯で近傍で動作する場合、相互干渉の点で両立し得るか否かについて審議したが、新技術についての経験が無いことから明確且つ確定的にIEC 62388規格に反映することができず、“近傍で動作するレーダ装置に著しい干渉を与えず、又当該装置から著しい干渉を受けないことを分析評価で確認する”との表現に留め、今後出現する可能性のある新送信技術採用レーダ装置から得られる経験に基づき次回見直しで考慮する。
   ※IEC 62388 Annex J – Presentation colours and symbolsを大幅に見直し、ECDISで採用されているIHO S-52に基づく色指定は、レーダ装置に相応しくないとの各国コメントを採択し、危険物標等の赤色表示以外の色は原則として指定しないこととした。本来先行すべき表示関係規格IEC 62288より当該62388が先行するために、62388 Annex Jと後続する62288 Annex Aとの整合が確実に図られるよう注視する必要がある。
   ※今回のResolution Meetingでは各国からの技術的コメントについて集中審議を行い、110件余りのコメントについて諾否及び一部修正して決着を見ることに成功した。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3/TC80-③（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007年 5月 31日

（報告者記載）整理番号：H19TC80①A

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC80(半角)
Plenary	☒TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称(日本語)	総会
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007年5月22日 ～ 2007年5月23日		
開催場所	(国名) ノールウェー	(都市名) オスロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Andy Norris/Kim Fisher	幹事国　UK	
参加国及び参加人数	11ヶ国、主な国名 日本、UK、米国、ノールウェー、スウェーデン、中国、韓国、参加人数 (34)		
日本人出席者名(会社名)	[○：補助対象者・・・(例)：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○田北　順二(日本無線)、○矢内　崇雅(沖電気工業)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．背景　IEC規格は主にIMOにて規定された船舶への搭載機器の機能・性能及び試験要件からなる規格でありその規格開発にはIMOを含めた関連機関及び団体との共同歩調が求められていることから定期的、総合的な進捗確認、開発方針の整合性が求められている。

2．目的　隔年に実施されるTC80総会は2005年10月に開催された前回会議から約2ヵ年に於ける各WGでの開発すべきIEC規格の進捗状況の確認と今後の2ヵ年に於ける開発項目の決定及び関連機関・団体とのLiaison状況の整合の確認・承認を行う。

3．成果　1）今回の会議は10月にWRC2007（無線通信世界会議）が予定されていることから、例年の開催時期の10月から5月に開催に時期を早めて開催された。

2）今回の会議はアジア地区から日本(2名)、韓国（1名）及び中国（3名）とこれまでの日本のみの会議参加から様相が変わってきた。特に中国のIEC対応の部門は西安からの出席として注目すべきである。

3）IECでの規格開発期間に関して、全体は38ヶ月で、①CDV回章に必要な手続き：1ヶ月、②CDV投票期間：5ヶ月、③CDV　コメントResolution/FDIS　回章手続き：8ヶ月、④FDIS投票期間：2ヶ月及び⑤IS：2.5ヶ月との説明があったが、③の期間がTC80では3ヶ月程度が適切であるとの意見が大半であった。

4）TC80としては初めてのNegative Votingとなった3案件、IEC61097-3 Ed.2、IEC61993-2 E.2及びIEC62238 Ed.2はNPとして再度推進を図る。又、開発期間がIECでの規定期限を過ぎたIEC62288及びIEC62376は1ヵ年以内のCDV回章することでNPが承認された。それ以外のNPはIEC61162-3、IEC62287-2及びAIS-SART（10月のIMOの会議後に番号を採番）を承認した。

5）スウェーデンからNPとして提案があったIEC61162-5　TCP/IPのIEC規格化はTCP/IPが一般的にコンピュータシステムで用いられており、IEC規格化をするメリットが感じられないとして、既に開発されたIEC61162-4との関係を考慮してWG6が更に検討することになった。

6）先のNegative Votingの一因がメンテナンス期限との関係でその処理をTC80サイドで急いだことに依ることの反省から、TC80 Secretaryからメンテナンス期限が迫っている規格情報を関係するWGに至急配信するとした。

7）関係機関・団体であるIMO、IALA、CIRM、RTCM及びITU-R等からの入力文書、コメントの説明等があり、IECとの関係は何れも良好な状況で推移し、今後も良いLiaison関係推進する旨のコメントがなされた。

4 次回の会議　関係者では日本での開催要望があったが、最終的に2009年10月　米国・フロリダを予定した。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。

（社）電子情報技術産業協会　　　　　運営委員会・資料番号：2-3/TC87-①（事務局記入）　　　　　様式 4
IEC活動推進委員会　御中

提出日：2007年 5月 31日

（報告者記載）整理番号：H18TC87⑧

IEC国際会議出席報告書

TC/SC/TA担当委員名：木下　博之　報告書作成者氏名：近藤　敏郎　（会社名）徳島文理大学

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC87/WG9(半角)
TC87/WG9	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	名称(日本語)	超音波パルスエコー診断装置
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007年 3月 20日 ～ 2007年 3月 20日		
開催場所	(国名) ドイツ	(都市名) シュツットガルト	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Peter Edmonds(米)	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日本、米国、ドイツ、オランダ、チェコ、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○近藤敏郎 [徳島文理大]、○岸本眞治 [日立メディコ]		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1. 背景：超音波診断装置の性能評価手法を規格化する要求が高まっている。TC87 は、科学的根拠に基づいた適正なる評価手法を提案、審議する責務を帯びており、WG9が担当部門である。

2. 目的：今回のWG9会議は、断層像用ファントムを用いて空間および濃度分解能を測定する手法の規格案と、生体内部で発生する音響ノイズを模擬するファントムによる画質判定手法の規格案審議が主なテーマである。日本は、評価手法を明確化し、測定の再現性と技術的矛盾の払拭を目的に意見陳述し、我が国に不利な状況を是正する事を目論む。

3. 成果：

3.1　IEC 61391-1　[ポイントスプレッド関数による高輝度部の分解能評価手法]
成立した規格文書の説明と確認を行った。

3.2　IEC 61391-2　[システムの感度とダイナミックレンジ評価手法]
87/361/NPとして提案された。
本件は、断層像を定量評価する技術を標榜しているが、試験所や大学等の研究機関により立案されたため、実験室レベルでの評価手法の色彩が濃く、メーカでの製品評価に適用するには不都合が多い。これらの問題点を是正すべく日本から提出したコメントを説明した。8月1日までにDr.Zagzebskiが審議内容を採り入れた改訂文書を作成して回覧する。このCD文書は、2007年10月の次回会議で審議の予定。

3.3　IEC 61391-3 [生体音響ノイズ模擬ファントムによる画質判定手法]
本事案に対し、日本はファントムでの音響ノイズ発生のメカニズムが明らかでない旨を指摘していたが、規格として提案され、審議が進められてきた。今回、ConvenorからIEC Technical Specificationとして適切な文書にまとめることが適当であるとの意見があり、会議で了解された。文書の内容での不明確な案件がいくつか指摘され、検討課題として残された。

4. 問題事項等：上記IEC 61391-3の題名変更の提案がなされたが採用されなかった。

5. 今後の予定：次回のWG9会議は、2007年10月に葉山の湘南国際村センターにて開催する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：2-3/TC91-①

様式 4

（報告者記載）整理番号：H19TC91①

提出日：　2007 年 6 月 11 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：　西山和夫　報告書作成者氏名：　梅垣淳一　（会社名）日本電気株式会社

会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91（半角）
TC91WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	電子実装技術
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催　☒同時開催	
開催期日	2007 年 6 月 7 日～2007 年 6 月 8 日		
開催場所	(国名) シンガポール	(都市名) シンガポール	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	D. Bergman（米国）	幹事国(TC91)　日本	
参加国	4ヶ国／主たる国名　日本、米国、ドイツ、オランダ（計 10 名）		
日本出席者	[○：補助対象者･･･(例)：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 山本克己（テクノオフィスヤマモト）、○荒金秀幸（ソニー）、○梅垣淳一（NEC）、松村光弘（溶接協会）、于強（横浜国立大学）、柴田明一（JPCA）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

後任のコンビナを調整中のため、今回もバーグマンが代行した。既存のプロジェクトのいくつかが終了し、着手が遅れていた案件や新規提案の処理が進んだ。

1) Pj#61192-5 ：プリント板実装の修理とリワーク

・91/652/FDIS が承認され、May 2007 に IS 発行された。

2) Pj#61190-1-3、-2：鉛フリーはんだ材料／ペースト（リーダ：鶴田）

・いずれもApril 2007にISが発行された。

3) 導電性樹脂材料の標準化

・スコープ案が提案され NP 文書を発行することになった。具体的な進め方は各国で検討・提案する。日本からの提案も検討するが、JEITA では関連企業の参加が少ないので、JPCA も含めて対応を検討する必要がある。

4) ボイドの評価基準

・NP提案の投票結果（91/653/RVN）とCD案につき説明した。各国コメントにつき審議しobservationを確認した。この結果をもとに、X線ボイド測定の留意点、手順、計算方法等の記述を追加して、CD文書を作成し回覧することで合意した。次回のソウル会議でコメント審議できるよう6月末までに発行回覧する。

・「用語と定義」についても、規格を引用するだけでなく、必要なものは、具体的な内容を記載して、読者の便宜を図るべきとの見解がコンビナから示され、それに沿って一部修正する。

・ドイツからは、良否判定の基準値を規定することは、顧客からの新たな要求項目の追加につながるので、賛成しかねる旨、コメントがあった。（正式には、CDに対するコメントで議論する予定）

5) IEC-61191s and 61192sのメンテナンス

・発行から 5 年以上経過しているはんだ付け品質基準（61191s と 61192s）につき、改訂に向け主な修正項目をリストアップした。主な変更点は、鉛フリーはんだへの対応と引用文書のupdate。バーグマンが最終案（全8件）を作成し、改訂作業の手順（MCR発行）を開始する。必要により、日本が改訂作業を分担することも検討する。

6) 鉛フリー対応ロードマップ "Arakane Map"

・Arakane Map の最新版を紹介した。

7) 有害物質の含有／非含有表示

・CDV段階まで進んできたIEC 62486と、それに伴うTC111等IECの関連活動につき報告された。

8) 次回会議

・（TC91）2007 年 10 月 16 日（火）-17 日（木）：ソウル（左記日程で事務局と調整する）

・（WG2）2008 年 5 月 19 日（月）の週：米国。JIC と併せて開催予定。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　　　運営委員会・資料番号：2-3/TC91-②
IEC活動推進委員会　御中

提出日：2007年6月18日

（報告者記載）整理番号：

IEC国際会議出席報告書

TC/SC/TA担当委員名：西山　和夫　報告書作成者氏名：潮　憲樹　（会社名）Panasonic Electonic device（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91（半角）
ACEA Meeting	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	電子実装技術
	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開催期日	2007年4月23日　～　2007年4月24日		
開催場所	（国名）スイス	（都市名）ジュネーブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Micheal E.Loch	幹事国　IEC本部	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、オランダ、日本、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○ 潮(パナソニックED)、山本(西山代理：テクノオフィスヤマモト)、柴田(JPCA)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1.背景

日本提案によるTC91にて推進している「電子・電気機器に使用される材料・部品・実装基板の特定の化学物質含有・非含有表示」のIEC規格化に対して、TC111より規格化中止をACEAに要請（111/77/INF）があった。TC91としては、TC111のみの説明ではACEAメンバーの理解が偏るとの見解で、ACEA会議へTC91よりの代表を送り説明をすることとした。

2. 目的

91/642/CDVの適用範囲と規格化の背景を説明することと、TC91はNP段階からTC111へ常に情報提供をし、且つ活動の住み分けをしていることをACEAメンバーに理解頂き、91/642/CDVをスムーズに前進させる。

3.成果

・91/642/CDV の提案背景が、消費者が直接関与する機器ではなく、その材料や部品などの工業会への適用が必要との見解（グローバルアンケート）から発生していることを理解頂いた。

・TC91及びTC111に加えその他のTCの意見をいれ、91/642/CDVをさらに効果的な規格にするように、TC91/TC11が共同して進めるようにSMBに提案するとの結論が出た。

4. 問題点など

・TC91のSPSのB4記載内容が現実と異なる。

・特定の化学物質の「homogeneous」の定義や、試験法をTC111との連携で、運用上混乱の無いようにしなくてはいけない。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06様式 2006.3)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3/TC１００-①（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2007 年 5 月 9 日

（報告者記載）整理番号：H19-100-⑧

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　　報告書作成者氏名：古川雅通　（会社名）（株）ケンウッド

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/PT61606-3 (半角)
PT61606-3	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他	名　称 (日本語)	デジタルオーディ測定方法 プロフェショナル用途
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007 年 5 月 6 日 ～ 2007 年 5 月 6 日		
開催場所	（国名）オーストリア	（都市名）ウイーン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Masamichi Furukawa	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	2ヶ国、主な国名 イギリス、日本、参加人数（6）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 由雄淳一（パイオニア）○ 古川雅通（ケンウッド）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

「デジタルオーディオ測定方法ープロフェショナル用途」の規格化プロジェクトの第５回会議報告

概要

前回2006年5月21日のPT 61606-3の会議にてCDV作成の為の議論を行い、AES の Iann氏に7月までにCDVの最終ドラフトを作成してもらうことにした。

しかし、その作業はAES側の対応するデジタルオーディオ測定方法の規格AES-17の改定も必要となることから、予定期間を過ぎても作成が完了しなかった。

８月にIEC事務局からlate Projectとしてコメントを求められたので、上記内容を報告してCDVの提出を１２月までに延ばしてもらう様に要請した。 TC100の９月のベルリン会議にてこの件は承認された。

11月末にAES側からCDV案が出てきたが、まだ多少技術的な問題点が残っていたので、ＰＬとして私の方からコメントを出した為に、そのレスポンスに時間がかかってしまい、結局今回の会議にてＣＤＶの再検討を行うことになった。

今回の審議状況

以上の様な状況から、今回再度ＣＤＶに関する審議を行った。

今回の審議は、ＡＥＳメンバー内部でのコメントも出てきて、それが主な審議事項となった。

その結果、ベースとなる AES17 の方を更に改良する必要のある項目も出てきたが、それらに対応するとなるとＡＥＳ側で数ヶ月以上の期間が必要となることが判明した。そこでこの件に関して議論して、間にあわない項目に関しては、当面今回の IEC 規格に記載せず、次回のメインテナンス時点で新規追加項目として提案することになった。

今回はこの様な配慮でＣＤＶとしての最終案の作成が可能となったので、５月中にIann氏にまとめてもらいIECへ提案することになった。

今後の予定

６月にはＣＤＶが配布されるとなると、その結果は１１月になるので 次回の AES コンベンション（９月）での会議は何か新規の状況が発生した場合に開催することにした。

もし９月の会議をスキップした場合でも来年の５月には最終の会議を行うこととした。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3/TC100-②（事務局記入）　　様式 4
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 5 月 8 日

（報告者記載）整理番号：H19-100-⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　　報告書作成者氏名：小町祐史　（会社名）大阪工大

出席会議名(半角)	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/AGS (半角)
TC100/AGS	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他	名称 (日本語)	TC100 戦略諮問会議
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2007 年 5 月 16 日 ～ 2007 年 5 月 17 日		
開催場所	（国名）ポーランド	（都市名）ワルシャワ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	小町 祐史	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	ヶ国、主な国名 北米(1), ヨーロッパ(3), アジアパシフィック(4), 議長(1), TC100 議長(1), IEC CO(1), セクレタリ(3), ゲストおよびオブザーバ(20) 注: TC100/AGS への参加は, 国ではなく, 地域からの代表による。、参加人数（34）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○小町祐史(大阪工大), 平川秀治(東芝), ○由雄淳一(パイオニア), 向井幹雄(ソニー), 伊賀弘幸(東芝), 本田文雄(富士通), 南典政(松下), 松村秀一(富士通), 江崎正(ソニー), 池田宏明(千葉大)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

TC100 のスコープ内の新技術に関して次の議論と決定を行った。

1. PACT 報告対応

Basic rules for identification systems： TC100 のオブジェクトを識別することに絞って identification の要求を明確にする。

2. 前回案件のフォロー

(1) General multi-channel assignment： NP の提出を求める。

(2) HD Photo： TC100 の標準化に与える影響を評価するため, 100/AGS(Secr.)275 を AGS/AGM メンバに配布する。

(3) Liaison report on MPEG activities： 引き続き MPEG 関連活動のリエゾン報告を Grant さんにお願いする。

(4) Accessibility： TC100 としての Accessibility の検討の必要性が確認され, TC100 Accessibility の TR を開発するために, Stage 0 project を設立する。

(5) Multimedia quality： 新 TA が提案され, そのコンセプトが承認された。新 TA の標題とスコープについてさらに AGM で議論する。

(6) audio surrounding technology, loudness： NP の準備を開始する。

(7) Domain management for contents broadcasting： 松村さんに NP を提出することを求める。

3. 新規案件

IPTV： TC100 の IPTV 戦略を明らかにする。

4. 関連技術の議論

IEC security： Security の標準化に関する TC100 strategy の提案を受け, これを第 1 版として承認すると共に, ここでの議論を反映した改訂版を作成する。

［注］： 1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3/TC100-③（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2007 年 6 月 7 日

（報告者記載）整理番号：H19TC100①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井 幹雄　報告書作成者氏名：平川秀治　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	TC 100（半角）
TC 100/AGM	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名 称（日本語）	マルチメディアシステム及び機器、運営諮問会議
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	

開催期日	2007 年 5 月 17 日 ～ 200 年　月　日	
開催場所	（国名）ポーランド共和国	（都市名）ワルシャワ
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mark Hyman (USA)	幹事国　日本
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日、米、英、韓、フィンランド、参加人数（25）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○平川秀治(東芝)、○江崎正(ソニー)、南、伊賀、池田、野谷、村岡、向井、松村、本田、由雄	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

定例の TC100 AGM は、ポーランド国ワルシャワ市で 5 月 17 日に開催された。

（1）各 TA からの報告

TA 1 からは TV 消費電力測定方法の CD が発行され件で CD-ROM の早期発行を CO に依頼した。TA 2 からは、Microsoft 社からの新提案 Windows Media Photo（HD Photo）が色情報の拡張を含んでいることの扱い方、scRGB フォーマットのマイナス値の扱いについて ITU-R の評価グループの熊田氏（NHK）からコメントがあったことなどが話題となった。TA 4、5について Project の進捗報告があった。TA 6 について、メンテナンス対象規格のうち、IEC 60094 シリーズ（9 件）と IEC 60386 についてはアナログオーディオ関連の規格なので GMT に移管すること、テープフォーマットなど古い規格については廃止または"Stabilized"を検討すること、MXF ファイルフォーマットは重要でり ISO（MPEG/JPEG）のファイルフォーマットも考慮にいれるべき、等の議論がされた。TV Metadata Dictionary について SMPTE との整合性についての課題が Hyman 議長から報告された。レーザビジョン規格 IEC 60856 は UK でアーカイブ用途にまだ使われているので Stabilized にすべきと Woodgate 氏よりコメントがあった。TA 8、9、１０について各々Pj の進捗報告があった。

（2）GMT からの報告、Stabilized Standards

Woodgate 氏よりメンテナンスの手続きと Stabilized Standards の手続き案について説明があった。SMB で Stabilized Standards のコンセプトは認められたが、15 年のメンテナンスサイクルを適用するよう決議されたことが報告された。手続きは TC 100 Guidelines and Procedures のメンテナンス手順のところに入れる。

（3）TC 100 Fast Standardization Procedure の適用

Mobile and Portable DVB-T Radio Access のメンテナンスについて、TC 100 Fast Standardization Procedure を適用したいと提案されがメンテナンス Project については適用する必要がないとの意見がだされ支持された。文書の完成度が高ければ CD を Skip することができ、CDV が反対なしで可決されれば FDIS も Skip できるので、TC 100 Fast Standardization Procedure を適用しなくても同じになるから適用しないこととした。

（4）リエゾン関連

TC9（鉄道）とのリエゾンが開始されることが AGM で承認された。その他、JTC1 との三層リエゾンについて状況報告があった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

（社）電子情報技術産業協会　　　運営委員会・資料番号：2-3/TC100-④（事務局記入）　　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　　提出日：2007 年 6 月 4 日

（報告者記載）整理番号：
H19TC100TA4①

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：蔭山 惠　報告書作成者氏名：由雄 淳一 /市村 元 /江島 直樹（会社名）パイオニア /ソニー /松下

出席会議名(半角)	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA4 (半角)
MT 60958-1 デジタルオーディオインタフェースー一般	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
MT 61937-1 (準備会議) 圧縮デジタルオーディオインタフェースー一般	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他	名称 (日本語)	デジタルシステムインタフェース & プロトコル
MT 61937-2 (準備会議)圧縮デジタルオーディオインタフェースーバーストインフォメーション	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007 年 5 月 4 日 ～ 2007 年 5 月 5 日		
開催場所	（国名）オーストリア	（都市名）ウィーン	
チェアマン／コンベナ	由雄淳一、市村　元・江島 直樹（候補）	幹事国 韓 国	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 米国、英国、ドイツ、オランダ、日本、参加人数（18）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○由雄 淳一(パイオニア)，○市村 元(ソニー)，○江島 直樹(松下)，蔭山 惠(松下)，川村 明久(松下)， 以下オブザーバ；濱崎 公男(NHK)，原田 登(NTT)，守谷 健弘(NTT)，相馬 善三(AES)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景・目的：

60958-1 は 2ndCD の回付が完了し、この会議によってＣＤＶ案の審議を行う。 61937-1、 61937-2 は 61937 シリーズの基幹規格であるが、新しいオーディオ圧縮方式 MPEG-4 ALS の追加（IEC 61937-10 として日本から NP 提案予定）及び現在民生用途規格である 61937 シリーズの業務用途への拡張使用要求が挙がっている。規格審議に当たっては従来規格との整合性が重要であり、業務用オーディオ業界団体であるＡＥＳの規格会議と併設してこれらの会議を開催することにより業務オーディオ関連技術者と詳細な打ち合わせを行うことを狙う。

審議状況・成果：

１.IEC 60958-1 （ＰＬ：由雄）
2nd CD に対するコメントをレビューした。CDV に向けた WD を審議した。特段の意見無く CDV への移行を確認した。関連情報として IEC 60958-4、AES3、IEC 62436 の審議状況が紹介された。

２.IEC 61937-1 （ＰＬ候補：市村）
IEC 以外で IEC 60958-4（業務用）への圧縮オーディオコーデック伝送が規格化されており、IEC 61937-1 への影響が懸念される。IEC 61937-1 は元々IEC 60958-3（民生用）への圧縮オーディオ伝送を前提に構成されており、IEC 60958-3 と IEC 60958-4 との差異（チャンネルステイタスビットの使い方）が IEC 61937-1 に影響を及ぼす。本件に関して事前検討結果が提示された。とりわけ一部のビットの使い方に関して現在の IEC 規格との競合が懸念されることが指摘され、課題共有が行われた。

３.IEC 61937-2 （ＰＬ候補：江島）
IEC 60958-4（業務用）への圧縮オーディオ伝送が実施される場合、IEC 61937-2 においてデータタイプの定義の仕方に影響を及ぼす。上記に関してＰＬから事前検討結果２例が提示されたが、民生・業務統一してデータタイプを決める案に対しＡＥＳ側から特段の反対意見が無いことを確認した。今後上記案を元に検討を進める。

今後の問題点：

今後は IEC 60958-1，IEC 60958-3，および IEC 60958-4 さらにＡＥＳ側とも連携しながら進める必要がある。

次回開催：2007 年 10 月（フランス）

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。